

## 国際学会 2011 年第 2 回研究会報告書

代表者：神岡太郎（国際 CIO 学会会長、一橋大学商学研究科教授）

日時：2 月 17 日（木） 17:00-19:00

場所：一橋大学商学研究科 丸の内産学連携センター

講演者：富士電機ホールディングス株式会社 CIO 長野佳久氏

タイトル：「CIO としての 500 日」

参加者数：11 名

内容：

代表者の神岡が司会をする形で進められた。

通常のスタイルに従い、前半は長野氏の講演、後半は自由な質疑応答という手順で予定されたが、司会者も含めて参加者より講演中から質問やコメントが自然に起こってきたため、前半と後半を分けずにインタラクティブな講演に切り替えられた。内容は、以下の流れに従い、長野氏が富士電機ホールディングスの CIO に就任する前から話が始まり、どのように社内でガバナンスをいかに構築してきたのかが話された。ガバナンスについては、一つは分散していた情報システム関連組織についての統合と組織変更、もう一つは複数部門（事業）を抱える中での全体最適が重要な課題となっていた。

1. 富士電機グループの概況
2. CIO としての 500 日（就任前、150 日まで、300 日まで、500 日まで）
3. 終わりに（経営の意識と IT、IT 組織のあり方、CIO の育成）

毎回のことながら、参加者から活発な意見が出された。例えば現在の IT ガバナンスが最終的な形なのか、情報システム関連スタッフの意識の問題、経営トップとの関係、部門からの抵抗等が話題となった。また製造業と保険業で異なるが、CIO として第 1 回研究会の横塚氏と共通する点があることも指摘された。

なお、本研究会は講演者、参加者の了解をいただき、その様子を短いビデオクリップにまとめるために、録画が行われた。10 分程度のビデオクリップにして Youtube 等で紹介される予定である。

